

# 定住自立圏構想

～ 共生・人口定住に向けて...美濃加茂市と協定書を締結～

12月22日、美濃加茂市役所において「美濃加茂市と八百津町との定住自立圏の形成に関する協定書調印式」が行われ、渡辺美濃加茂市長、赤塚町長が協定書にサインをして協定を締結しました。

定住自立圏構想とは

大都市圏に人口が集中し、地方では大幅な人口減少と少子高齢化が進んでいます。定住自立圏構想とは、地方から大都市への人口流出を押さえるため、国（総務省）が推進する施策です。

一定規模の都市「中心市」と、生活・経済面で関わりの深い「周辺市町村」が協定を締結し、中心市が策定する「定住自立圏共生ビジョン」に沿って中心市の持つ都市機能と周辺市町村の持つ自然環境や農林業、歴史、文化など、それぞれの魅力・強みを活かして相互に連携していくことにより、地方の活力や生活機能を高め、地方圏での人口定住を図るものです。

定住自立圏形成協定を締結

美濃加茂市は平成21年3月、加茂郡7町村を対象とした「中心市宣言」を行い、これまでに坂祝町、川辺町、富加町、七宗町、白川町との間で協定を締結。今回の調印式では、八百津町と東白川村が調印を取り交わし、これにより加茂郡すべてが定住自立圏域（みのかも定住自立圏）に入りました。

八百津町は、昨年4月から民間委員の意見を取り入れながら美濃加茂市と協議を進め、両市町とも12月議会の議決を経て、今回の協定書の締結となりました。



協定書にサインをする赤塚町長(左)と渡辺市長

調印式に出席した渡辺市長は「八百津町とは、木曾川を通じてお互い密接な関係にある。この協定を通じて、さらに交流を深め、より豊かで便利な地域作りに向けて努力していきたい。」

赤塚町長は「八百津には、筏や舟運の歴史など、古くから美濃加茂市とのつながりが深い。お互いの市町の特徴を活かしながらさまざまな分野で連携を図り、この町に住んでいて良かったと実感できる町づくりを目指して共同事業に取り組み、交流を深めていきたい。」など連携に向けた思いを語りました。

この協定による連携事業は、行政分野だけでなく民間のさまざまな活動を支援していくこととなっています。町内の各種団体・事業所等で、今後美濃加茂市との連携により活動の幅を広げていける事業がありましたら、ぜひ、定住自立圏構想による事業として積極的に参加していただきたいとします。



調印後、かも美(左)かも丸と一緒に記念撮影  
左から赤塚町長・渡辺市長・安江(東白川)村長

定住自立圏構想の形成に関する協定書の内容

協定の目的

この協定では、美濃加茂市と八百津町に住む人たちが、より快適で幸福な暮らしの実現のために必要な都市機能や生活機能を強化し、定住化の推進と圏域に住む一人ひとりが、住んで良かったと実感できる「自立循環型のふるさと定住自立圏」を形成することを目的としています。